



教育推進室だより

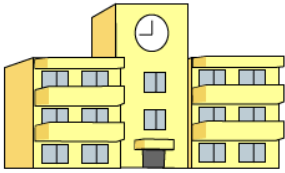
第4号

平成27年12月15日

武蔵野市教育委員会

指導課教育推進室

電話60-1241



地域の教育力で子どもたちに感動と喜びを

指導課教育推進室長 小森 正代

平成25年3月に「武蔵野市教育センター（仮称）検討委員会報告書」が出され、そのなかで教育目標の実現に向け、地域とともに子どもの学びを支援する拠点として、教育センター（仮称）の設置が提言されました。

そしてこの4月1日、センター開設までの間、喫緊の課題である「相談・支援」「研修」「教育情報収集・発信」「調査・研究」「ネットワーク構築・コーディネート」の5つの機能を先行して行うため「教育推進室」が開室しました。すでに行っている若手教員育成研修などはさらに充実を図り推し進めますが、新たなコーディネート業務については、武蔵野市らしく行っていくにはどうすべきか、学校長をはじめ開かれた学校づくり協議会の方々にもご相談しながら検討しています。

学校と地域との繋がりや、学校の教育内容が拡大したことから、昔に比べ希薄になったような気もしますが、阪神淡路大震災では、学校と地域が密に連携し協力していた学校ほど学校の再開が早く行われた、という結果が出ています。そのことから学校と地域との連携の在り方を見直す自治体も生まれています。武蔵野市内の学校でもそのような連携を大切にし、実際にコーディネーターを選任し効果的に取り組んでいる学校もあり実績をあげています。

また、世界的にも過大とされる日本の教職員の多忙な業務を少しでも軽減し、子どもたちとの触れ合いの時間に充てて欲しいと考えている方は少なくありません。そして子どもたちのためにできることがあれば学校に協力したいと考えている市民の方も多くいらっしゃいます。地域コーディネーターの活躍で、これら二つの「子どもたちを思う気持ち」をうまくリンクさせれば、どんな素敵なことが起こるか計り知れません。

8月に開催された東京都教育委員会の「企業等による体験型講座」に参加しました。「出前授業」の大会と言ってもよいかもしれません。「ロボット プログラミング体験」「まなぼう教室（円の価値って何？）」など様々な授業が行われましたが、どの教室でも子どもたちは100分もの間、休みなく瞳を輝かせながら授業に参加していました。新しいことの発見・挑戦・体験は想像以上に子どもたちに感動や喜びを与えていました。

また、子どもたちが、地域の方々や市内の企業・大学等が学校に協力することで自分たちを思いやってくれていることや見守ってくれていることを感じることは、子どもたちにとって希薄化している地域での人間関係を「あったかい」関係として感じさせてくれる貴重な時間にもなることでしょう。

発足間もない教育推進室ですが、子どもたちの瞳が一層輝くよう努力したいと考えております。学校や地域の皆様には、教育推進室との連携をよろしくお願いいたします。



地域コーディネーターを生かすために

平成 27 年度第 1 回開かれた学校づくり協議会代表者会

平成 27 年 10 月 28 日（水）に市役所にて行われました。
本会議は、開かれた学校づくり協議会の代表者が一堂に会して協議や意見交換を行うことを通して、教育委員会の諸事業についての共通理解を図るとともに、学校と地域が連携して教育を推進することを目的として、平成 21 年度から開催しています。

毎年、年 2 回代表者会を開催し、出席者の各小中学校 18 名の開かれた学校づくり協議会代表者の皆様その他、教育長、4 名の教育委員、教育委員会事務局のメンバーにより、協議を行っております。

今年度、第 1 回目の会議では、宮崎活志教育長のあいさつ、出席者自己紹介の後、竹内道則教育部長より「教育部の事業について」、大杉 洋教育企画課長より「学校施設整備基本計画について」、稲葉秀満教育支援課長より「特別支援教室の導入について」それぞれ報告しました。

続いて、指田和浩指導課長より、平成 28 年度からの開始に向けて、現在教育推進室で準備を進めている「地域コーディネーター（注 1）」や、「地域コーディネーター、学校支援コーディネーター（注 2）、学校との関係」等についての説明を行いました。

その後、近隣小中学校ごとに 3 つのグループに分かれて、「地域社会と学校との連携について」や「地域コーディネーターを生かすには」等をテーマに、協議を行いました。

協議後の意見発表では、「学校と地域との信頼関係を強くしていくことが、地域コーディネーターを生かしていくことにつながる。」「地域コーディネーターが扱う学校支援協力者の個人情報の漏洩の防止等に留意する必要がある。」「学校によりニーズが異なるため、学校と地域コーディネーターが情報共有して、適切な人材を教育活動に活かしていけるよう連携していくことが大切である。」などのご意見を頂きました。

代表者の皆様から頂いたご意見を踏まえながら、今後、地域コーディネーターの在り方について、改めて検討してまいりますので、よろしく願いいたします。



当日の協議の様子

（注 1）地域コーディネーターとは、中学校の学区単位を目途に、開かれた学校づくり協議会や青少年問題協議会等と連携しながら、地域での人材発掘や交渉・調整等を行っていただく地域の方のことです。

（注 2）学校支援コーディネーターとは、学校が必要とする人材を地域コーディネーターや企業等に依頼したり、地域コーディネーター等から提供された情報を学校に提供したりする等、主に学校と地域コーディネーター等を仲介する役割を担う市の職員のことです。

子どもたちにとっては
楽しく！ 安心！

理科指導員の 先生方を紹介します

先生にとっては
心強い！

武蔵野市教育委員会では、理科の観察・実験の充実と理科授業の指導力の向上を図るために、現在、小学校 11 校に理科指導員を配置しています。今回、2つの小学校の理科指導員の方の活躍の様子を紹介します。

【第一小】 6年生の「てこのはたらき」の授業です。担任の麻生崇子先生からの第一声は、「重いものが軽くなる、マジックのような不思議なはたらきをもつ『てこ』について、小林先生からの挑戦状を受けました。」という不思議な発問です。担任の麻生先生と理科指導員的小林光信先生の間で、今日の実験は小林先生からの挑戦状ということにして児童の意欲を高めようと打ち合わせていたそうです。「実験で『手ごたえ』を感じてほしいです。この挑戦を受けてくれるかな」という小林先生の説明を子どもたちは目を輝かせて聞いていました。最後まで和やかで楽しい授業には、小林先生と子どもたちの間にある信頼関係を感じました。



一小で指導する小林先生

【関前南小】 6年生の「水溶液のはたらき」の授業です。ムラサキキャベツを塩もみにして出した水溶液について説明していたのは、吉田有紀子先生です。「6年前から理科指導員として勤めています。毎時間が楽しくて幸せです。」と答える笑顔に優しさがあふれていました。実験中、安全に注意しながら、子どもたちの様子を見守っていました。子どもたちも安心して、3,4時間目の授業に集中して取り組んでいました。



関前南小で指導する吉田先生

「理科が苦手な子に、好きになるきっかけをつくりたい」「担任の先生方が、理科の専門家でなくても、授業をすることが楽しくなってほしい」という理科指導員の先生方の熱い思いの中、授業の支援を行っていただき、担任の先生方からも「心強い」存在となっています。

理科指導員として、小林光信先生（第一小・境南小）、矢吹富美子先生（第二小・本宿小）、岡本和代先生（第三小）、吉川信隆先生（第四小・井之頭小）、大久保美穂先生（大野田小）、吉田有紀子先生（千川小・関前南小）、盛田泰孝先生（井之頭小）、飯沼有希枝先生（桜野小）、の8名の方々が各校で活躍しています。

子どもたちにとっては
日常的な学習環境！

ICT 機器を活用した 授業を紹介します

先生にとっては
効果的な教具！

武蔵野市教育委員会では、平成 27 年 9 月に、小学校 6 校の全普通教室に書画カメラ、電子黒板機能付きプロジェクタを、「タブレット PC 導入モデル校」として中学校 2 校にタブレット PC をそれぞれ導入しました。現在、活用事例の収集やタブレット PC を授業で活用するための効果検証を行っています。



プレゼンテーションの作成

今回は、タブレット PC を活用した授業の様子を紹介します。

第三中学校では、1年生が「小・中学校合同セカンドスクール報告会」の準備を行っていました。子どもたちは、タブレット PC を囲んで、自分の考えを相手に分かりやすく伝えるための話し合いを行いながらプレゼンテーションを作成していました。

1人1台ではなく4～5人グループに2台のタブレット PC を教員が渡すことにより、子どもたちの話し合い活動を活性化させていました。ICT 機器は、子どもたちの思考力や表現力を授業で高めるツールとして今後も活用していきます。



タブレット PC を囲んでの話し合い

【初任者研修】先輩の授業に学ぶ

今回は、第五小学校の浅川泰裕先生の授業を参観させていただきました。「授業が始まると、教室内の空気が変わった。切り替えの大切さを学んだ。」「自分の考えをノートにしっかりと記入していた。」「授業に積極的に参加したくなるような工夫があった。」「今、何を授業しているのか、ひとめで分かる板書だった。」「子どもたちをほめ、認める声かけが参考になった。」等、初任者の先生にとって、目指す授業展開が明らかになりました。



先輩の授業を参観する様子

【3年次研修】次のステージに向けて

3年目の教員を対象にした「若手教員育成研修」が行われました。中堅の教員として、学校を引っ張っていく立場となるにあたっての「心構え」、「教師は子どもたちの命を預かっているという責任感」、そして、「子どもたち一人一人を大切にすること」を改めて深く学びました。さらに、より良い授業づくりのための学びと同時に、校務を推進するための基本となるP(計画)D(実行)C(評価)A(改善)サイクルと、管理職や教員間の「ほう(報告)れん(連絡)そう(相談)」の意義と理解についての自覚を高めました。



研修会の協議の様子

出前授業いたします

～地域で活躍している団体紹介 <その3>～

特定非営利活動法人
武蔵野スポーツクラブ (理事長 塩野 芳男)
(理事 上村 智士郎)



塩野 芳男理事長 上村 智士郎理事

武蔵野スポーツクラブは「総合型スポーツクラブとして、地域の人々に愛され、誇りとなるクラブを目指し、スポーツを通して、社会への貢献をし、人々の心身の健全な発達を図り、豊かな社会の実現に努めます。スポーツ文化を築くことにつながるさまざまな取り組みを支援します。(抜粋)」を基本方針として2007年から活動しています。

塩野理事長と上村理事からは「横河武蔵野フットボールクラブを運営母体としてのクラブの選手やコーチが、市内、小学校でのサッカークラブ、中学校での部活動、小中学校の体育等の授業でのゲストティーチャーとして、これまでも、その時々のご要望にお応えする形で指導活動を行って参りましたが、今後はさらに充実させ、将来につなげていきたいと考えています。」と熱い思いを伺ってきました。

FIFA 公認 12歳以下の世界最大のサッカー大会ダノンネーションズカップ 2014 ブラジル大会で「横河武蔵野フットボールクラブジュニア」が日本代表として初優勝したという実績はとても素晴らしく、武蔵野市の誇りでもあり、未来に向かって成長している子どもたちの可能性を開くきっかけとなりました。今後のさらなる活躍を期待しています。



選手の皆さんが子どもたちに指導している風景

お問い合わせは、教育推進室または武蔵野スポーツクラブにお電話を

電話 0422-60-1241(教育推進室)

0422-55-0720(武蔵野スポーツクラブ)

【お知らせ】

今回の教育推進室だよりでお気づきの点やご意見がありましたら、ぜひ教育推進室までお寄せください。

次号は児童・生徒による小中合同セカンドスクール報告会や書初め展・美術展での様子などを紹介する予定です。